

## 15. 福祉制度を利用しない要支援者への効果的なアプローチ及び地域資源発掘の必要性の研究

○田中 美帆(白井市社会福祉協議会・ボランティアコーディネーター)

### 【目的】

要支援者がボランティアセンターに支援を依頼してくるのは、①利用できる制度を知らない、②制度があっても対象の枠からはずれて利用できない、あるいは制度がない、③制度を利用したくない場合によると大別できるであろう。制度の隙間を埋めている、千葉県白井市のボランティアの活動の現状把握と分析をおこない、ボランティアを活用した地域福祉のパワーアップの過程を明らかにしていきたい。

### 【方法】

白井市ボランティアセンターおよびボランティア個人の活動の現状把握と活動分析・アンケートによる意識調査・事例研究をおこなう。

### 【結果及び考察】

#### 1. 白井市ボランティアセンターの現状把握

白井市は千葉県の西北部に位置し、東京都心から約 30km、電車で 50 分ほどの東京のベッドタウンになっているニュータウン地区と、梨や米作農家が点在する在来地区が半々の、人口 6 万人ほどのコンパクトな町である。

ボランティアの登録は、個人が 242 人、グループが約 1000 人。

[2009 年 7 月白井市ボランティアセンターの記録] ～個人ボランティア～

|     |               |       |      |      |                    |
|-----|---------------|-------|------|------|--------------------|
| 実活動 | 施設活動          | 396 人 | 相談支援 | 新規登録 | 2 人                |
|     | 点字            | 2 人   |      | 相談   | 33 人               |
|     | 通院介助          | 16 人  |      | 調整   | 255 人              |
|     | 個人宅訪問・話し相手・将棋 | 8 人   |      | 新規依頼 | 18 件               |
|     | 保育(子供の一時的預かり) | 14 人  |      | その他  | 300 人(保険加入・活動の報告等) |

[あるボランティアの日常生活スケジュールと、ボランティアコーディネートの実際]

元気なボランティアさんには、毎日のように活動を依頼していく。様々なボランティアさん同士がチームを組むと、活動の幅がさらに広がりを見せる。

そして、一つの活動にはなるべく多くのボランティアにかかわってもらおう。利用者からすれば、障害を抱えていること、独居であることなど周囲にはあまり知られたくないことと思われるが、最小限の人数で関与するのではなく、あえて「みんなで支える」という体制で臨むようにしている。そうすれば、

活動に行き詰まったときに、みんなで支え合い、アイデアを出して解決することもできるし、休みのボランティアのピンチヒッターをさがすことも容易である。利用者からも、これまで「みんなに知られていやな思いをした」といった意見はない。ボランティア活動は、崇高な、かしまった特別なものではなく、広く一般市民のあたりまえの活動であるはずなのだから。

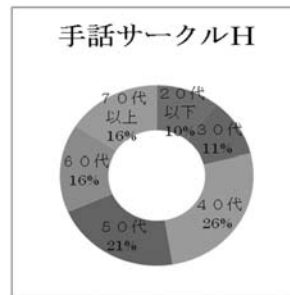
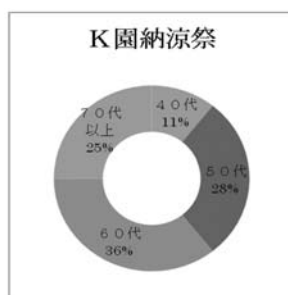
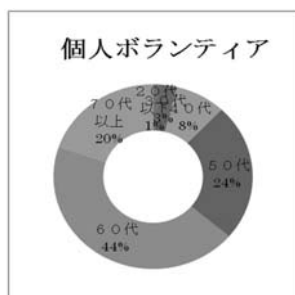
女性ボランティア A 子さん(60代)  
 月 子育て支援・保育ボランティア  
 火 視覚障害者のガイドヘルプ \*  
 水 パソコンサークル幹事 \*  
 近所の犬の散歩  
 木 福祉センター売店手伝い  
 金 老人施設でカラオケ入力  
 近所の犬の散歩

男性ボランティア B 男さん(60代)  
 月 福祉作業所で利用者の送迎 \*  
 作業の手伝い  
 火 視覚障害者のガイドヘルプ \*  
 水 独居高齢者の弁当配達 \*  
 金 独居高齢者の通院送迎  
 土 知的障害者施設で散歩の付添  
 注; \*は、団体および制度上の活動

7月には、障害者や高齢者の施設の夏の行事が多かったために、普段の人数より2倍ほども施設へ動員された。個人ボランティアの活動だけでのべ436回にのぼった。登録ボランティア242人のうち、常時活動していると思われる人は131人(アンケート返送者)なので、1ヶ月にひとり約3,3回活動したことになる。しかも、前述のボランティアA子さん・B男さんのように、ほとんどのボランティアが個人だけでなくボランティアグループや福祉団体のもとの活動もあるため、日々、東へ西へと奔走していただいている。

〈ボランティアの年齢構成〉

|       | 個人ボランティア | K園納涼祭 | 手話サークルH |
|-------|----------|-------|---------|
| 20代以下 | 2人       |       | 2人      |
| 30代   | 7人       |       | 2人      |
| 40代   | 19人      | 3人    | 5人      |
| 50代   | 56人      | 8人    | 4人      |
| 60代   | 102人     | 10人   | 3人      |
| 70代以上 | 46人      | 7人    | 3人      |



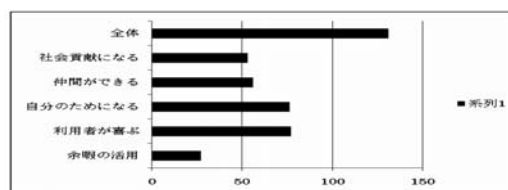
ボランティアの主力メンバーは、60代から70代前半の女性である。まず、ご本人が元気なこと、親を看取って介護の必要がないこと、孫の世話はするが、自分の暮らしも大切にしていること、そしてご主人が退職して家にいることが多いといったかたがたがボランティアセンターを支えてくださっている。上の表からわかるように、60代・70代の総数は全体の64%を占め、実際に施設で活動している人の分布もK園(老人施設)の納涼祭ボランティアからわかるように、60代・70代でやはり60パーセントの割合を占めている。ただ、手話サークルのような活動になると、年代の偏りは少なくなり、幅広い年齢層で構成されていることがわかった。

## 2. (1) 質問紙郵送によるアンケート調査

2009年2月に、登録個人ボランティア242人を対象にアンケート調査をおこなった。質問内容は、①この一年間の活動報告 ②ボランティアをしてよかったこと ③活動して気付いたことである。回答者は131人で、回答率は約54パーセントにのぼる。ここでは②と③について報告する。

②(ボランティアをしてよかったこと) 総数242人中回答者131人・複数回答可とした

- |   |          |     |
|---|----------|-----|
| A | 社会貢献になる  | 53人 |
| B | 仲間ができる   | 56人 |
| C | 自分のためになる | 76人 |
| D | 利用者が喜ぶ   | 77人 |
| E | 余暇の有効活用  | 27人 |



その他の意見として、「親にはきつくあたるが、他人になら親切になれる」とか、「実家が遠くて親にはなかなか会えないけれど、近所の施設に行くと少し罪の意識から開放される」とか、「孫がいなから、よその子をかかわいがる」「普段、なかなか入れない施設の様子がわかる＝人生の予習ができる」といったものもあった。全体的に人と人とのふれあいの大切さを実感している様子が見えがえる。

③(活動して気がついたこと)

- ・新しい発見があって楽しいです。
- ・同世代ではなく、色々な世代の交流がはかれるボランティア活動ができれば素晴らしいと思う。
- ・困ったことがあった時に、仲間から情報を提供してもらえて選択の幅が広がる。
- ・車いすの使い方などの勉強会を開いてほしい。
- ・犬の散歩ってどんなことしてるの？
- ・ボランティア活動の自発性の観点から保険料は自己負担にしてはどうか。
- ・科学の好きな子がふえればいいなと思っている。
- ・短い時間で終わるボランティアがあると、若い人も参加しやすいのではないかな。
- ・ボランティア活動を知らない人が多い。
- ・利用者のことを理解できない時、活動に疑問を感じる。
- ・施設の人出が足りないところをボランティアが協力している。施設の経営が難しいと感じた。

- ・活動回数は少ないのですが、できる時にできることをと思っています。
- ・年齢が高いので近くであればお手伝いしたいと思っています。
- ・主催者が依頼する人数と、実際に必要だと思われるボランティアの人数のバランスがとれていない。
- ・自分も利用者も、ともに喜びあえる。
- ・過去の経験が活かせる。
- ・なんでもボランティア(センター)で受けるべきでない。内容をよくチェックしたほうがよい。
- ・時間通貨の導入を検討してほしい。
- ・「少産多死」社会で、終末期医療についてふだんから考えることが必要になってくる。

活動をとおしてボランティア自身を見つめ、社会の矛盾にとまどいながらも自己実現を図っている様子が見えてくる。

## (2) ボランティアグループ・サービス利用者・保護者への対面調査

ボランティアグループや障害をもつサービス利用者及びその保護者の会・計10団体へは、当初質問紙アンケート調査を試みた。回答を得られたのは2グループのみであったため、後に対面調査に切り替えた。Q1 は、質問紙の回答、Q2 は精神障害者の通所施設への対面調査の回答である。

Q1. ボランティアをして得られたものは何ですか？

対象: 知的障害者の働く喫茶店のボランティア30名・複数回答可

A. 仲間が増える(19人) 社会貢献(8人) 自分のためになる(9人) 喫茶店の雰囲気・調理が楽しい(11人) その他: 多くの人と出会い、意見交換ができる・ 父母の会の若いお母さんたちのがんばりを応援したい・広い意味で障害者やその家族の世界を広げることができる

Q2. ボランティアに期待することは何ですか？

対象: 精神障害をもつサービス利用者

A. もっといっぱい一緒にいたい 仕事をしたいので応援してほしい ボランティアさんのように社会の役に立つ人になりたい パソコンを覚えたい いっしょに音楽をやりたい

3. 事例研究 …身体障害者5人・精神障害者2人・視覚障害者5人・聴覚障害者1人について調査したが、身体障害者の男性一人について報告する。

「脳性マヒの50代男性・独居」

自力歩行がなんとか可能で、数年前までは就労もしていた。1年遅れたが、義務教育も普通学級で卒業した。50歳過ぎて二次障害が出てきて、肩や手足にしびれや張りがでるようになった。手術を決意し、姉の家近くにある他県の大学病院に入院。手術後3ヶ月で退院し、通院する必要があったが、電車で通うには体力に自信がないし、タクシー代は5万円ほどかかり、1割引になったとして

も高くして毎回はとも払えない。障害2級。市役所の総合相談室から「お金がないみたいだし、ボランティアでなんとかしてくれませんか」と依頼があった。彼が利用できるサービスは、障害者自立支援法の移動支援・白井市独自の外出支援サービスが考えられた。

初回面接のとき、彼はそのどちらも知らなかった。障害者自立支援法という名はニュースで聞いたことはあるが、それが自分にどのような関係があるのか知らないし、誰も教えてくれなかったと話した。彼はまた、自身の障害に関する情報も得ていなかった。情報入手が困難な背景には、普通教育を受けたので周囲に同じ障害をもつ人がいないこと、独居であることなどが考えられる。もちろん、インターネットは利用していない。自分の手足が思うように動かなくなることへの恐怖と苛立ちがうかがえた。「頼れるのは手術をしてくれた先生だ。他の病院もいろいろ行ったが、どこへ行っても『つっぱるの仕方ないよ』と言われた。今の先生だけが頸椎の手術をすれば半々で治る見込みがあるといって手術してくれた。手術後は一時的に本当によくなった。でももう少し治せていないところがあるからもう一回手術してもらいたいんだ。そうすれば治る。」と語った。

数日後に迫った診察予約日に間に合う福祉制度はないため、ボランティアで車を運転し、もうひとり介助役がついて、ボランティアで通院をサポートした。ガソリン代実費のみ利用者負担とした。

通院の道すがら、ボランティアから情報を得たりして、彼に変化が見られるようになった。彼が福祉制度の軌道に乗ったのである。障害者自立支援法の下でのホームヘルプサービスやデイケアサービスを受けるようになり、また、市の給食サービスも利用するようになった。

ボランティアの意識も向上した。遠く離れた病院へからだの不自由な人を連れて行くことは、強い緊張と、「なぜ私が」という心の葛藤をともなったはずである。しかし、帰路で利用者の男性から、「こんなに親切にもらったの、生まれてはじめてだ」と涙ながらに礼を言われたボランティアの達成感の大きさは計り知れない。

さらに、やっかいなことでも引き受けてくれる「ボランティアセンター」の存在に行政が気づき、その後、さまざまなやっかいなことが持ち込まれるようになった。市内各所の障害者や高齢者で制度を使えない人の通院送迎介助はもちろん、精神障害者や難病患者の見守り支援・ゴミ屋敷の片付けなど多岐にわたる。

障害者の彼自身も、サービスを受けるだけでなく、誇りを持って主体的に生きることを発信するようになった。市内の中学校へ出向いて福祉の総合学習の時間の講師をつとめ、未来を担う子どもたちへ「障害があっても地域でみんなといっしょに生きること」の尊さを伝えている。

#### 【経費使途明細】

|   |          |
|---|----------|
| 調査票記入協力費 @20,000×2団体                    | 40,000円  |
| 対面調査協力費 @30,000×9団体・@20,000×7人・@5000×2人 | 420,000円 |
| 通信運搬費 市内特別郵便@65×166通 普通@90×16通 @80×3通   | 12,470円  |
| プリンターインク代 5色組1セット                       | 4,270円   |
| 調査データ集計協力費@15,000×2人                    | 30,000円  |
| 合計                                      | 506,740円 |